

1. 工業会事務局報告

(1) 平成 21 年度第二回理事会 (平成 21 年 1 月 1 8 日)

①平成 21 年度上期事業報告・収支報告

②平成 21 年度下期事業計画・予算計画

平成 21 年度下期事業計画については 資料— 1 参照

(2) 委員会・部門会体制の見直し提案について

杉浦常任幹事長より改正に至る経緯、現状の組織、改正組織について資料に基づき説明がされ、異議無く承認された。当改正は平成 22 年 4 月 1 から実施となる。

(資料— 2、3、4 参照)

(3) ペンタックスインダストリアルインスツルメンツ (株) の新会社への事業移行報告及び会員資格等の提案について (資料— 5 参照)

新会社 T I アサヒ株式会社は 11 月 2 日設立、12 月 1 日実質開始。基本的には新会社移行前同様の事業展開を行う。ペンタックスインダストリアルインスツルメンツ (株) としては 11 月末で工業会退会となるが、T I アサヒ (株) として工業会への再入会を強く希望。

(4) 来年度開催予定「G 空間 E X P O」概要説明について (資料— 6 参照)

開催時期 平成 22 年 9 月 19 日 (日) ~ 21 日 (火)

開催場所 パシフィコ横浜

以 上

平成 21 年度下半期事業計画書（案）

平成 21 年度下半期の主な事業は下記の通り。

1. 標準化事業

(1) ISO 国際規格関係

ア. 国際規格適正化委員会活動

- ① ISO DIS 17123-5 Electronic Tacheometer Full Test の日本案審議
Electronic Tacheometer = トータルステーション

イ. ISO/TC172/SC6 国際規格国内分科会活動

- ① ISO 案審議（既存規格への不確かさ概念の導入案：3 規格）
 - ISO17123-1 理論
 - ISO17123-4 EDM
 - ISO17123-6 回転レーザ
- ② ISO DIS 17123-5 Electronic Tacheometer Full Test 日本案提出
- ③ 新規 ISO 規格案審議（3 規格）
 - ISO17123-9 レーザスキャナ
 - ISO17123-10 ノンプリズム測定
 - ISOXXXXX ハンドヘルドレーザ距離計

(2) 工業標準（JIS）規格関係

- ① 標識くい、JIS 認定作業への援助の促進
- ② インテリジェント杭の仕様標準検討

2. 行政関係事業

(1) インテリジェント基準点杭

フォーマットの規定促進検討（地理院測地部基準課の指導の下）
仕様決定の促進

(2) 「公共測量作業規程」確認作業に対する支援

平成 20 年 4 月施行「公共測量作業規定」の確認作業が現在行われており、工業会として検討委員の派遣及び関係委員会・部門会による意見提出を積極的に行う。

3. 一般事業

(1) 国土交通省総合政策局建設施工企画課及び国土技術政策総合研究所関係

「TS を用いた道路土工の出来形管理」

「舗装工」の全国版については国総研が主体となって平成 22 年度以降本格的な検討・試験施工が実施されることになっている。それに伴い工業会としてはノンプリズム TS による舗装厚測定の精度に関して試験方法も含めて理論的な検証を行って、全国版の要領案に反映させていく必要がある。工種拡大の一環として「地下埋設物」が追加され、下期に試験施工（4 件

予定)が実施される予定である。

情報化施工機器の規格化と普及については 建設機械化協会情報化施工委員会の規格検討WGにて審議・検討することになり、現在 出来形管理用ソフトウェア・サポートソフトウェア要求の規格化について議論を進めている。

RTK-GNSSによる出来形管理についても平成20年度に引き続き工種として「道路土工」、「河川」に対する試験施工が平成21年下期に5件程予定されている。

(2) G空間EXPO開催への支援

来年度、「地理空間活用基本法」閣議決定に伴い、内閣官房が主管する「G空間EXPO」が平成22年9月19日(日)～21日(火)パシフィコ横浜にて開催されることとなった。本年まで継続開催している「地理空間情報フォーラム」が中心となり、工業会として主催団体・実行委員会委員として開催に対し支援することになる。

(3) ICタグの利活用推進

国土地理院測地部に対しICタグの利活用について推進を行う。

ICタグメーカーとの共同作業により、測量関係団体・国総研・地理院関係者に対し、今まで以上に「ICタグ」の有用性に付き勉強会・意見交換会を開催する。

4. 工業会機器検定・認定事業に関する主な活動

(1) 機器検定

検定に関する改善を推進する。(検定期間短縮、生産性の向上等)

(2) JSIMA規格による校正・検査認定制度

平成22年12月更新時期を迎えるに当たり、次の課題に対する対応策を検討する。

- ① メーカー(教育指定事業者)のサービス認定店から除外された認定事業者対応
- ② メーカー(教育指定事業者)推薦から除外された認定事業者対応
- ③ 次回更新時(平成22年12月)委託事業者は認定事業者から除外する事への対応

5. 表彰関係

(1) 政府等の表彰について積極的に候補者推薦する。

(2) 工業会表彰を行う。

6. その他

(1) 賀詞交歓会、春季懇親会の開催(予定)

賀詞交歓会 平成22年1月18日(月) 東京プリンスホテル
総会・春季懇親会 平成22年5月24日(月) 機械振興会館 会議室

(2) 校正・検査認定制度の周知及び質的向上

校正・検査認定制度は、来年・平成22年12月で運用6年(第2回目の更

新時期)を迎え、周知策としてISO審査委員への制度理解周知等外部団体と連携し推進していく。併せて、質的向上についても国内委員会を中心に検討を進める。

(3) JSIMAロゴの活用

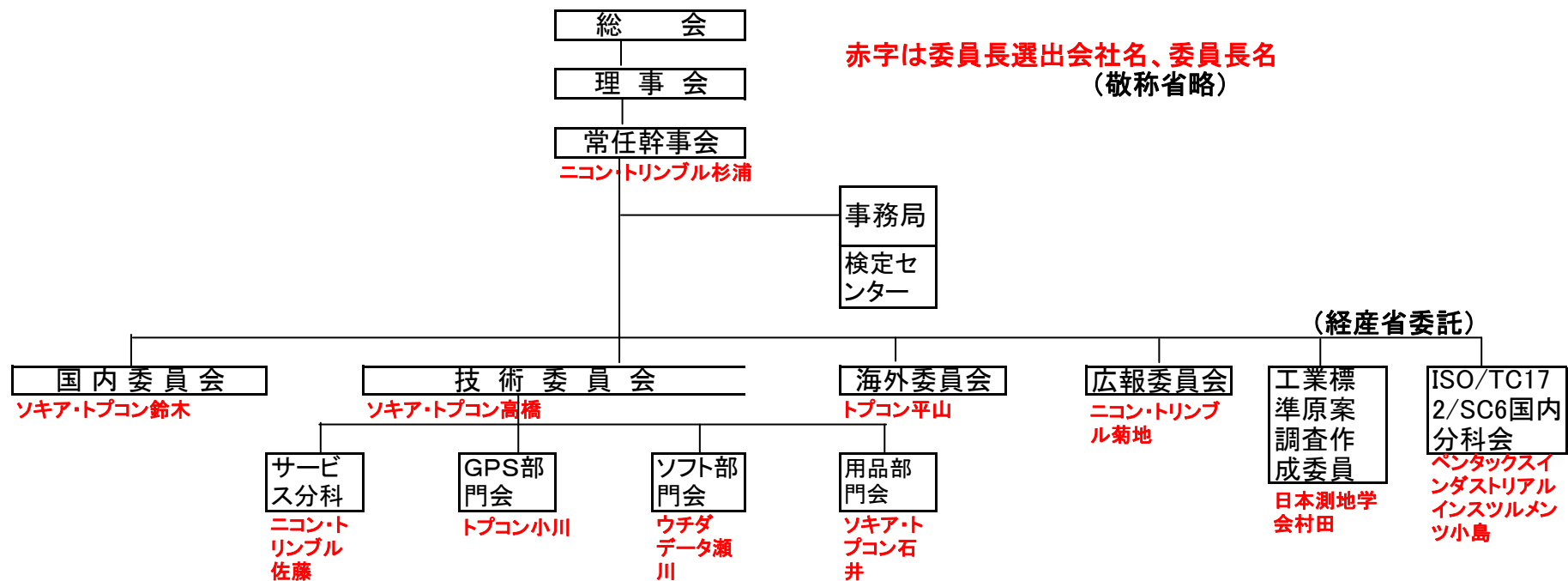
広く「日本測量機器工業会」の存在を周知する為に、工業会ロゴの活用・利用を積極的に推進する。(会員企業の名刺による利用等)

(資料-2)

(現 状)

一般社団法人日本測量機器工業会組織図概要

2009. 11. 18



その他の部門会・WG(必要に応じ設置された)

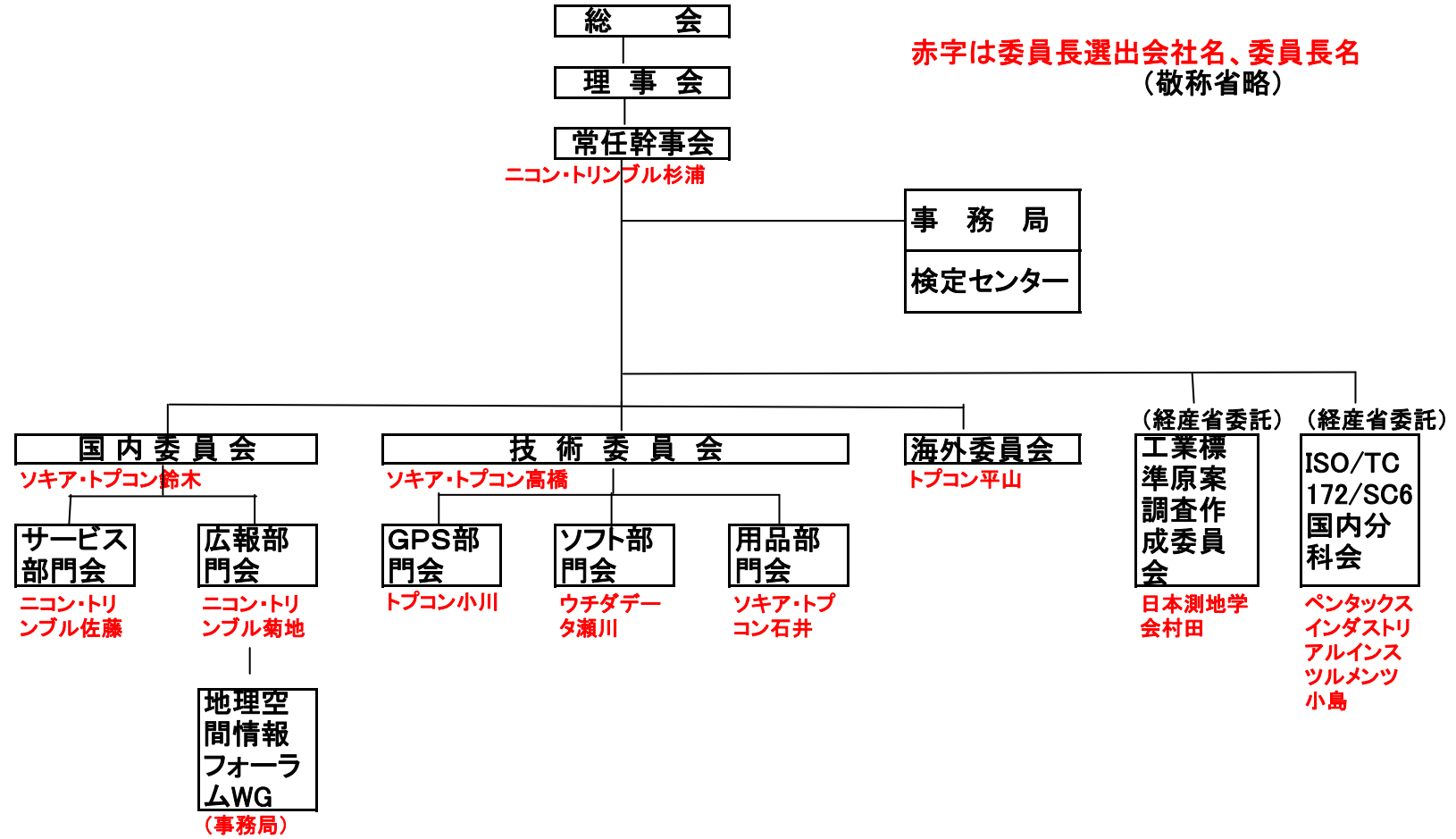
電子式 測量機 器部門 会	光学式 測量機 器部門 会	認定事 業WG	長さWG	標識杭 WG	ICタグ 規格W G	地理空 間情報 システ ム展WG	検定責 任者会 議
ニコン・ トリブル 北爪	ペンタック スインダ ストリアル インスト ルメンツ 金子	ニコン・ トリブル 佐藤	ソキア・ トプコン 阿部	ソキア・ト プコン石 井	ソキア・ト プコン石 井	事務局	検定セ ンター

(資料-3)

(改定案)

一般社団法人日本測量機器工業会組織図概要

2009.11.18



(資料-4)

今回の改定点(工業会委員会・部門会・WG組織)

1. 従前の委員会・部門会・分科会・WGを活動実態に合わせ再編成した
 - ・「サービス分科会」を「サービス部門会」と改称し「国内委員会」の下に置く
 - ・「広報委員会」を「広報部門会」とし「国内委員会」の下に置く
 - ・「地理空間情報システム展G」は継続的に展示会が開催されるために「広報部門会」の下に置く
 - ・「電子式測量機器部門会」は現状活動は無く、廃止とし、
電子式測量機の問題発生時に「技術委員会」に受け皿を設置する
 - ・「光学式測量機器部門会」は現状活動は無く、廃止とし、
光学式測量機の問題発生時に「技術委員会」に受け皿を設置する
 - ・「認定事業WG」は「サービス分科会」に統合する
 - ・「長さWG」は廃止とする。(設置目的は達成した)
 - ・「標識杭WG」は廃止とする(設置目的は達成した)
 - ・「ICタグ規格WG」は廃止とする(設置目的は達成した)
 - ・「検定責任者会議」は検定事業の課題・報告事項発生時に開催されることから組織図からは削除する。
2. 報告系統を明確にした
3. 規定どおり幹事長・幹事・委員長・部門長は会長委嘱とする。
4. 幹事長、委員長、部門長の任期は1期／3年とし、再任は妨げない。(但し2期／6年を上限とする。)
5. 改定時期は平成22年4月1日からとする。
(平成22年2月末までに委員長・部門長選出会社の検討(バランス調整)を行う。)

各位

新会社への事業移行のご挨拶

謹 啓、時下ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。
平素は格別のご高配を賜り厚くお礼を申し上げます。

さて、この度ペンタックスインダストリアルインスツルメンツ株式会社は、測量機事業をより一層の発展を目的として、平成21年 10 月 30 日をもって、中国での合弁パートナーであり測量機・計測機器の大手商社である Taiwan Instrument Co., Ltd. (TIC) が日本に設立する新会社へ事業を引き継いで、PENTAX 測量機の開発・製造・販売を続けていく事になりましたので、ご案内申し上げます。

お客様各位におかれましては、ペンタックスインダストリアルインスツルメンツ株式会社をお引立て賜りましたことに衷心より感謝申し上げます。

新会社におきましても引き続き、お客様にとって一層価値ある製品およびサービスを提供すべく精進努力を重ねる所存でございます。

また、TIC との協力のもと、より一層の製品ラインナップの拡充と品質・性能・機能の強化を図り国際競争力を高める所存ですので、倍旧のお引立ての程を、お願い申し上げます。

なお、新会社の詳細につきましては後日ご案内申し上げますが、お取引途上の内容については新会社が引き続き担当いたしますので、よろしくお願い申し上げます。

敬 具

平成 21 年 10 月 吉日

ペンタックスインダストリアルインスツルメンツ株式会社
代表取締役社長 町田 武

「G空間EXPO」開催概要

1. 名 称 : 「G空間EXPO」
サブタイトル「いつ・どこ情報で暮らしが変わる、未来を創る」
G-s p a t i a l E X P O
2. 会 期 : 2010年9月19日(日)、20日(月・祝)、21日(火)
3. 会 場 : パシフィコ横浜(横浜国際平和会議場)
4. 主 催 : G空間EXPO実行委員会(産・学・官メンバー別紙1参照)
5. 開催時間 : 10時～17時
6. 入場料 : 無料
7. 行事内容 : 展示会
講演会／シンポジウム／セミナー
体験・実演型イベント
ベンダーフォーラム
情報交換
8. 来場者数 : 3万～5万人(3日間延べ・見込み)
9. 展示規模 : 140社／団体／機関 700小間(2m×2m)
小間代=126,000円／1小間
ベンダーフォーラム、シンポジウム=有料(今までは無料)
10. 備 考 : 例年6月頃開催されている「地理空間情報フォーラム」は、当「G空間EXPO」に包括される。2011年度は「地理空間情報フォーラム2011」として開催予定。